学童保育の現場から

高崎　樋口 明広

緊急事態宣言が出され、3 月 2 日から高崎の小学校は三か月の長期休業になりました。

市内の学童では、何の前触れもない休校に対応するため、明日からのシフト組み換えでもうてんてこまいとなりました。要するに夏休みと同じような時間帯で考えなければなりません。朝 7 時半頃には子ども達がやってきます。最後のお迎えの子どもは 7 時前後。開所は 12 時間近くになります。全国の学童が本当に慌てふためいたのです。

A学童でのエピソード

それまで来ていた大学生三人が転居や卒業・就職でアウト。おまけに中堅で頑張っていた方が病休に。春休み限定で一人学生アルバイトが見つかったものの手薄な状況は改善されぬまま前倒しの春休みに突入。

B学童でのエピソード

・・・・・・ 三月の勤務状況

Ｓさん（50 歳代）のシフトは以下の通り

２日㊊　午前 9 時～午後 6 時（ 9 時間）
３日㊋　午後 1 時～午後 7 時（ 6 時間）
４日㊌　午前 8 時～午後 7 時（11 時間）
５日㊍　午前 9 時～午後 7 時（10 時間）
６日㊎　午前 9 時～午後 6 時（ 9 時間）
７日㊏　午前 8 時～午後 1 時（ 5 時間）

※学校と違って学童には職員室や休養室のような休憩する場所はありません。ずっと子ども達と一緒です。要所要所を消毒したり、学校と連絡を取ったり、親からの声に対応したり、お弁当の確認など働きづめの一日です。

Ｓさんの長時間労働は翌週も続きました。二週目の月曜が 10 時間、火曜が 10 時間、水曜が 10 時間、木曜が 11 時間、金曜が 11 時間。やっと土曜になって休めたそうです。

そうしないと、慢性的な人手不足の学童はまわっていきません。Ｓさんの賃金は時給 860 円。有給はあっても取れない厳しさです。

C学童でのエピソード。

「子どもを預けて良いのか、本当に悩んでいます」

これは病院の受付の仕事をされているお母さんが、学童にお迎えに来た際にため息交じりに指導員に発した言葉です。

もし学童で新型コロナが発生したら真っ先に疑われるのは、うちの子どもではないか。そうなったらいじめの対象になってしまうのではないか。あるいは逆に子ども経由で私が感染して病院に広めたらどうなるだろう。

（学童の職員や子どもから陽性反応が出たら即、学童も学校も閉鎖です。）

「大丈夫ですよ。預けてください」と、その指導員が声をかけるとほっとした表情をみせたそうです。

私の勤める学童では、4 月に入ってから校長先生と相談して午前中は学校で子ども達を預かってもらう事にしました。

子ども達はめいめい問題集や宿題のプリントを持って、並んで職員玄関へ。そこで待っている先生にバトンタッチ。2 年生以上はお弁当を食べる所まで面倒を見てもらいました

5 月に入ると保護者の協力もあり、登園児童は十数名になりました。これは登録児童の四分の一にあたります。ゆったりと子ども達と一日を過ごすことができました。もしフルに子ども達が来ていたら、もたなかったでしょう。三か月、大過なく過ごせたのは奇跡的と言えます。

最後にちょっと微笑ましいエピソード

「外遊びの時間に一緒に遊んでください」と先生方にお願いしました。

さわやかな春風にふかれて、笑顔でタイヤ飛びジャンケンをする若い先生と子ども達の姿に、学校の“原点”を見る思いでした。